

(報告) 四国ファシリティマネジメント協会_施設調査 2019

「むろと廃校水族館」「室戸世界ジオパークセンター」(高知県室戸市)

はじめに

四国ファシリティマネジメント協会(SFMA)では、ファシリティマネジメント(FM)の普及拡大に取り組んでいる。

今回、先進事例調査として「むろと廃校水族館」「室戸世界ジオパークセンター」における地域創生事業の取り組みについて調査し、FMの普及拡大に向けた技術の習得を図る。

調査は、山下幸男氏、三好加純氏(四国FM協会)、佐々木浩二氏(香川県)、松本直樹氏(四国電力)、川野雅浩氏(ジョンソンコントロール)、野村敦氏(清水建設)、西野渉氏(四国特機)、清水孝司氏(イトーキ)、安岡稔弘氏(四電技術コンサルタント)の計9名で令和元年(2019)11月21日(木)に調査した結果を報告する。

1. 調査報告(むろと廃校水族館)

(担当者)

むろと廃校水族館 館長 若月元樹氏(指定管理者)
高知県室戸市室戸岬町533番地2
TEL 0887-22-0815

むろと廃校水族館は廃校となった小学校を利用した施設である。(室戸市の人口12,000人)



(図1) むろと廃校水族館

廃校はむろと廃校水族館が2校目となる。その他5校の廃校が予定されているが、利用計画は未定である。事業の担当は企画財政課である。

事業の経緯は、13年前に廃校となった旧椎名小学校を改修し水族館に再利用してはどうか、との提案が

日本ウミガメ協議会(大阪)から平成26に出された。これを受け平成27年6月に地域住民、民間団体、高知県および室戸市の職員を委員とした「旧椎名小学校活用検討委員会」を立ち上げ、施設の有効活用について協議・検討を重ねた。

平成28年には施設改修工事費お議決がされた。「室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」および「高知県産業振興計画地域アクションプラン」において重要な地域振興策として位置付けられた。

事業の提案をされた日本ウミガメ協議会は以前から室戸にてウミガメの研究を続けていたことから今回の提案となった。

施設のオープンは平成30年4月26日である。今年のGWは27,724人の来場者となった。年間の入場者数は当初計画4万人であったが、30年度は17万人が来場した。(入館料大人600円)

指定管理者(NPO法人日本ウミガメ協議会)が全て管理運営されており、室戸市は関係なし。1年間の収入9000万円、利益4000万円(税抜き前)である。

市の収入(税金)は無いが、観光客の増加により宿泊客やお土産など貢献できている。データを今後収集できると良い。

事業費のうち過疎債により80%負担、残り20%が市の負担である。(総事業費5億5千万円)その他補助金として「空き家対策総合支援事業補助金(国庫)」「高知県観光拠点施設等整備事業費補助金(県費)」を利用した。

施設の概要は、1階がエントランスホール、2階に水槽、3階は標本室など、屋外のプール大小にウミガメやサメを泳がしている。施設では室戸の海域で生息し獲れる海洋生物の飼育・展示・研究を行う。飼育魚類・ウミガメ等の給餌、測定体験など、見るだけでなく海洋生物と触れ合えるミニ水族館として確約する。

(調査員)

昨年に引き続き、私自身2回目となる施設調査に参加させて頂きました。調査先は室戸市「むろと海の学校(むろと廃校水族館)」・「室戸世界ジオパークセンター」です。調査先まではバスでの移動となり高松駅を8時に出発、室戸市には12時頃到着、調査前の昼食には「室戸のキンメ」をととてもおいしく頂きました。その後、まず「むろと海の学校(むろと廃校水族館)」へ向かいました。

むろと水族館のパンフレットの表紙は「むろと‘ハイ行こう’水族館」と記載されており、廃校を利用した水族館という希少性をアピールされています。

むろと水族館の外観は小学校のままで、館内では各教室を展示室としてそのまま利用されていました。面形の大型水槽や小型の水槽を設置し、地元で捕獲した海洋生物を展示してあります。

地元の漁師さんたちは珍しい生物が捕獲されたとき展示用に持ち込んでくれるとのことでした。通常、水族館では生物の受入と飼育に経営的負担がかかると思えます。しかし地元の漁師さんが捕獲した生物を展示することで受入費用を軽減し季節毎に入れ替えることで水槽の温度管理費用等も軽減できるとのことでした。なぜ、地元の漁師さんが無償提供してくださるのか疑問に思いましたが、館長さんは「お孫さんたちが帰省した際に連れてこられて、これはおじいちゃんが採った魚だよ、と自慢したくて提供して頂けるのですよ」とおっしゃってました。



(図7 理科室)



(図8 図書室)

水族館を出るときに話題となっているぶりくじを引いてみました。結果は4等でしたがよいお土産が出来ました。



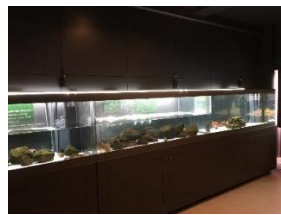
(図9 ぶりくじ)



(図10 景品)



(図3 円形水槽)



(図4 横型水槽)



(図5 洗面所水槽)



(図6 家庭科室)

小学校の中には、家庭科室や理科室、図書室がありこの専門教室もうまく展示用に改装してあることも印象に残りました。なかでも図書室には、海洋生物にちなんだ専門的な書籍や児童向けの書籍を集めてあり、ほとんどが寄贈されたものとのことでした。40年ぶりに紙芝居を見て感激しました。

ウミガメの生育研究がもとになっている水族館の一番の見どころは屋外小プールにウミガメ、大プールにサメやサバなどを泳がせているところです。他の見学者の方々(平日だったのでご年配の方が多かったと思います)も太陽光によって反射色が変わるサバを見て、屋外の上から見学できる水槽ならではの感心されていました。

メイン展示物のない水族館と館長さんはおっしゃっていましたが、様々な工夫で集客を行っている館員のアイデアがこの水族館のメインだと感じました。

(調査員)

廃校となった校舎をそのまま利用することで、見学者の郷愁を誘うとともに建設・修繕費等を抑える手法は、保有施設の有効利用の観点から非常に参考になった。廃校水族館による宣伝はツイッターのみとし、開館時間の照会等はホームページで廃校水族館の広報を行っている室戸市が行ったり、展示する魚等は近隣の漁港から調達するなど、できるだけ水族館の中核的な運営に専念できるように業務負担を軽減する取組は、限られたマンパワーのなかで工夫が凝らされていると感じた。幅広い年齢層が楽しめるカプセルトイを設ける、学校のプールを利用して間近で魚を見ることができるようにする、学校の教室をそのまま残した部屋で食事できるようにするなど、見学者を飽きさせない仕掛けが多数施されており、運営者の工夫や熱意が感じられた。

2. 調査報告(室戸世界ジオパークセンター)

(担当者)

室戸市観光ジオパーク推進課課長補佐 堺宗大氏
高知県室戸市室戸岬町1810番地2

TEL 0887-22-5161

室戸世界ジオパークセンターは廃校となった中学校を利用した施設である。



(図2) 室戸世界ジオパークセンター

(調査員)

次に「室戸世界ジオパークセンター」へと向かいまわりました。ジオパークセンターは2015年に中学校の廃校を改修した施設だと聞いていましたが、中学校の面影はなく、外観は施設用に新築された建物のように見えました。

室戸市付近は1,000年で平均2mという驚異的な速度で地面が隆起し続ける地殻変動の最前線とのことで、地形や地質を目前で観察できる地質学研究の世界的なスポットだということでした。施設の中も元中学校とは思えない明るさと開放感で小学校の雰囲気を残したまま利用している水族館とは全く違った趣がありました。



(図11 展示1)



(図12 展示2)

まず、ジオパーク体験ボックスで地殻変動の雄大な歴史を見学し、建屋中央の大型日本列島3Dマップにて室戸付近の海底地形について説明を受けました。建屋奥には災害検知(地震検知)のシステムや構築の映像がありとても興味深く見学をさせて頂きました。

最後にはセンター内のジオカフェで、こちらも話題のソフトクリーム「ジオソフト」を頂きました。

室戸付近は海洋深層水が有名で深層水を採取されているそうです。黒い外観のソフトクリームは室戸岬の巨岩をイメージし、材料には深層水の塩と食用加工した土佐備長炭を使用されているそうです。店長さんが考案して販売されており、人気の商品とのことでした。

(調査員)

地域に眠る自然環境に係る資源を活用することで観光客を呼び込むことができるという例として、参考になった。

(調査員)

NPO運営の水族館、と行政運営のジオパークの違い等をあそこまであからさまにお話いただいたのには少しびっくりしましたが、問題点を見据えて今後のことを考えているのだと思いました。

10年間で1万人の人口減にも驚かされましたが、南海トラフ巨大地震に大きな不安を抱える地方での活性化の難しさを感じました。

おわりに

施設調査は2件ともに廃校を再利用した建物であり、様々な工夫で集客を行っていることが印象に残りました。良いアイデアが施設の有効利用になると改めて感じた施設調査となりました。

入口にある立派な石碑の正面に「室戸市立椎名小学校」側面には小学校の歴史と校歌が書かれていました。「むろと水族館の石碑」ですが、実は自動販売機のラッピングでした。見学後に裏側をみて、自動販売機だと分かったときは驚きました。



(図13 石碑)



(図14 自動販売機)

館長さんにこの自動販売機はどうしたのですかと尋ねると「飲料メーカーさんより自動販売機を置かせてくださいと依頼があったのでラッピングして頂けるのなら良いですよと回答しました。デザインを御渡ししたら驚いていましたが、早く作成してくれて今では全国でも有名な自動販売機の一つですよ。Winwinですね」と笑って答えて頂きました。やはり、目を引くのはアイデアだと思いました。

廃校を利用した水族館は全国でも初めてであろう。県外からの見学者や自治体、議員さんなど多くの方が来場された模様であり、室戸市さまにはJFMA賞への応募を検討していただけると幸いです。